

蜘蛛流大工棟梁横田氏の神社関係の図面資料について

—横田家大工文書の研究(11)—

Consideration of the Shrine Plan Data of Drawings by the Yokota Family, the Master Builder of Kumo School

白井裕泰
Hiroyasu Shirai

要約

横田棟梁が描いた神社関係の図面資料は、絵様図を除いて33点あるが、今回の分析に用いた図面資料は27点である。この図面資料のうち、建物名が不明なものは21点あり、図面相互の比較や現存遺構との比較によって、14点の図面について建物名を推定することができた。

キーワード：蜘蛛流、大工棟梁、横田氏、神社、図面資料

* 住居学科

目次

- I はじめに
- II 神社関係の図面資料
- III 建物名が不明な図面資料
- IV おわりに

I はじめに

横田氏は、東北地方において蜘蛛流と呼ばれる大工集団を形成し、江戸後期から明治期にかけて活発な建築生産を行った大工棟梁である。

本研究は、横田家大工文書に関する一連の研究⁽¹⁾の一つであり、ここでは横田家大工文書における図面資料に注目し、その特色を明らかにすることを目的としている。

横田家大工文書における図面資料は、大きく分けると寺院関係、神社関係、住宅関係、絵様関係などがあり、約424点におよぶ膨大な量がある。これまでに寺院関係、住宅関係、絵様関係の図面資料について分析を行ってきた⁽²⁾が、ここでは神社関係の図面資料について分析を行うことにする。

これまで建物名が不明であった神社関係の図面資料について、図面資料相互の内容の比較や現存遺構との比較を通して、建物名を明らかにし、さらには横田氏が描いた図面の性格について考察を試みることにする。

II 神社関係の図面資料

『横田家文書目録』⁽³⁾における神社関係の図面資料をすべてあげれば、表1のようになる。ただしここにあげた図面資料は、平面図・小屋伏図・立面図・断面図・規矩図・組物図などを指していて、絵様図は別に分析を行ったので除外している。また目録にない図面資料7点を追加している。

表1によると、横田家大工文書には神社関係の図面資料が33点あり、このうち6点の資料が手元になかった。33点（このうち建物名がわかるもの8点）の図面のうち、平面図は12点（このうち建物名がわかるもの2点）、小屋・軒伏図は2点、立面図15点（このうち建物名がわかるもの3点）、組物・高欄詳細図4点（このうち建物名がわかるもの3点）、などがある。

各図面の割合は、平面図が36.4%、小屋・軒伏図6.1%、立面図45.5%、組物・高欄詳細図12.1%となっていて、平面図・立面図が全体の8割（81.9%）を占めている。

寺院関係の図面資料と比較すると、神社関係の図面資料数は寺院関係の図面資料数全体

表 1 神社関係の図面資料

番号	目録番号	図面名称	作成年代	種類	員数	備考
建物判明の資料						
1	214	駒形稲荷宮御本社地図正味木割				
2	217	駒形村稲荷宮雨覆伏図		原本	1枚	
3	218	駒形宮 [高欄廻り姿図]		原本	1枚	
4	222	駒形宮 [組物廻り詳細図]		原本	1枚	
5	225	[組物伏図]		原本	1枚	欠
6	232	郷社諏訪神社拝殿十分壹正面図		原本	1枚	
7	256	[鹿島神社正面図]		原本	1枚	欠
8	257	鹿島神社御本社拾歩壺之図		原本	1枚	
建物不明の資料						
9	269	奥州田村郡三春領広瀬村赤沼 [鳥居正面図]		原本	1枚	
10	404	三間社壺丈二尺之木割正味		原本	1通	
11	405	三間木割之曳		原本	1冊	欠
12	406	一間社木割之曳		原本	1通	欠
13	503	拝殿地図		控書	1枚	
14	504	位荷宮御神楽殿小屋組之図		控書	1枚	
15	508	稲荷宮神楽殿正味軒廻り十分一		下書	1枚	
16	509	御本社正味改		下書	1枚	
17	510	神楽殿和様大垂木大臂木作		下書	1枚	
18	537	五間社惣梁間壺丈五尺五寸惣軒間式丈式尺		下書	1枚	
19	612	[鳥居等寸法図]		下書	1枚	
20	613	[神社本殿側面図]		原本	1枚	
21	614	[神社本殿・拝殿・幣殿側面立面図]		原本	1枚	
22	615	本殿伏図		原本	1枚	
23	620	[本殿側面図]		原本	1枚	
24	621	[拝殿側面図]		原本	1枚	
25	648	[拝殿正面図]		原本	1枚	欠
26	682	[神社本殿三間社「流造」の平面図]			1枚	
27	689	拝殿小屋組之図		原本	1枚	
28	726	[神輿宝珠及び屋根部分図]		原本	1枚	
29	779	[組物廻り詳細図]		下書	1枚	
目録にない資料						
30		一間社流作右妻図 (子鍛倉神社本殿)		原本	1枚	
31		[本殿側面図]		原本	1枚	
32		[山車側面図 (部分)]		下書	1枚	
33		[山車正面図 (部分)]		下書	1枚	
34		鎮守熊倉神社御本宮 腰組流造側面之図		原本	1枚	吉田鍛造設計
35		熊倉神社拝殿 正面拾分壺図		原本	1枚	横田石太郎設計
36		縣社子鍛倉神社図 縮尺二十五分の一		写	1枚	製図者不明

の3割程度しかなく、また小屋伏図が圧倒的に少ないことがわかる。

また寺院関係の図面資料 108 点を分析した結果、横田棟梁の図面は、建築全体をまとめていく段階のスケッチ図面と施主に提示する正式な意匠図面と部材の加工・組立に必要な施工図面といった3つの性格をもっていたと考えられる⁽⁴⁾が、神社関係の図面資料の資料数が33点と少ないこともあって、神社関係の図面の性格を明らかにすることは困難であると言わざるを得ない。強いて言えば、神社建築の立面図が比較的豊富に見られることであろうか。

ところで横田棟梁が手掛けた明治以降の建築をみると、寺院建築1棟に対して神社建築は8棟あり、明治期以降において神社建築が主流であったことがわかる。これは明治

期において国家神道の形成をはかった宗教政策の影響によるものと考えることができる。

表2 建物別の図面資料

番号	目録番号	図面名称	作成年代	種類	備考
菅谷神社本殿			寛保 2・1742 年		
1	613	[神社本殿側面図]		立面図	推定
菅船神社本殿			文化 14・1817 年		
2	509	御本社正味改		平面図	推定
3	615	本殿伏図		平面図	推定
子鉾倉神社社殿			嘉永 6・1853 年		
4	504	位荷宮御神楽殿小屋組之図		小屋伏図	
5	508	稲荷宮神楽殿正味軒廻り十分一		軒伏図	
6	510	神楽殿和様大垂木大臂木作		平面図	
7		一間社流作右妻図		立面図	横大文研 8
8		縣社子鉾倉神社図 縮尺二十五分の一		立面図	神社所蔵図面
9	689	拝殿小屋組之図		平面図	
羽黒神社本殿			元治元・1864 年		
10	404	三間社杵丈二尺之木割正味		平面図	
11	682	[神社本殿三間社「流造」の平面図]		平面図	
12		[本殿側面図]		立面図	横大文研 8
駒形神社本殿			明治 6・1873 年		
13	214	駒形稲荷宮御本社地図正味木割		平面図	
14	217	駒形村稲荷宮雨覆伏図		平面図	
15	218	駒形宮 [高欄廻り姿図]		詳細図	
16	222	駒形宮 [組物廻り詳細図]		詳細図	横大文研 5
鹿島神社社殿			明治 16・1883 年		
	256	[鹿島神社正面図]		立面図	欠
17	257	鹿島神社御本社拾歩杵之図		立面図	
18	614	[神社本殿・拝殿・幣殿側面立面図]		立面図	鹿島神社
熊倉神社社殿			明治 21・1888 年		
19	620	[本殿側面図]		立面図	横大文研 8
20		鎮守熊倉神社御本宮 腰組流造側面之図		立面図	神社所蔵図面
21		熊倉神社拝殿 正面拾分杵図		立面図	神社所蔵図面
諏訪神社拝殿			不明		
22	232	郷社諏訪神社拝殿十分壹正面図		立面図	
建物名不明					
	225	[組物伏図]		詳細図	欠
23	269	奥州田村郡三春領広瀬村赤沼 [鳥居正面図]		立面図	
	405	三間木割之支		平面図	欠
	406	一間社木割之支		平面図	欠
	503	拝殿地図		平面図	欠
24	537	五間社惣梁間杵丈五尺五寸惣軒間式丈式尺		平面図	
25	612	[鳥居等寸法図]		立面図	
26	621	[拝殿側面図]		立面図	
	648	[拝殿正面図]		立面図	欠
27	726	[神輿宝珠及び屋根部分図]		立面図	
28	779	[組物廻り詳細図]		詳細図	
29		[山車側面図 (部分)]		立面図	
30		[山車正面図 (部分)]		立面図	

注：「横大文研 5」は「横田家大工文書の研究 5」、「横大文研 8」は「横田家大工文書の研究 8」の略記

Ⅲ 建物名が不明な図面資料の検討

横田家大工文書における神社関係の図面資料は 33 点あり、このうち建物名が不明なも

のは 25 点ある。また手元にある建物名不明の資料は 21 点ある。

この建物名不明の資料について、建物名を明らかにするには 2 つの方法が考えられる。1 つは建物名が判明している図面資料との比較によって明らかにする方法と、他の 1 つは横田棟梁が手掛けた建築のうち現存する遺構との比較によって明らかにする方法がある。さらに 2 つの方法を同時に適用して図面の建物名を明らかにできればさらに確実性が高くなるといえよう。

また図面の中には実際に建築されなかった建物の図面も含まれている可能性がある。1 つは実際に施工された建物の別案を図面化したものであり、他の 1 つは全く実現されなかった計画案を図面化したものである。この判断は、横田棟梁の全体の建築生産活動を踏まえて、総合的に判断するしか他に方法はない。

建物名が不明な図面資料について、各建物別に図面資料を詳細に検討することにする。

① 菅谷神社本殿（寛保 2・1742 年）

〔神社本殿側面図〕（図 1）を菅谷神社本殿の現存遺構と詳細に比較すると、次の相違点を指摘することができる。

- ・遺構では脇障子が後身舎柱桁行方向に取り付いているが、図面では後身舎柱梁行方向に取り付いている。
- ・遺構では身舎組物は出組であるが、図面では三ツ斗組となっている。
- ・遺構では妻飾は虹梁・大瓶束であるが、図面ではさらに笈形が付いている。
- ・遺構では破風尻が切り落としになっているが、図面では木鼻様になっている。

ここまで相違点があれば、通常別物と考えるのが自然であるが、海老虹梁・妻虹梁の渦文若葉、向拝柱の象鼻、鬼板の鰭などの絵様は 18 世紀中頃の様式を示し、これまでの研究⁽⁵⁾の結果、菅谷神社本殿に類似していることが明らかにされている。

② 子鋏倉神社神楽殿・本殿（嘉永 6・1853 年）

〔御本社正味改〕（図 2）および御本社〔本殿伏図〕（図 3）は、桁行身舎柱間 8.228 尺（2.493m）、梁行身舎柱間 6.732 尺（2.04m）、身舎・向拝柱間 6.358 尺（1.926m）であり、一間社としてはかなり大規模な本殿である。表 3 より、この規模の一間社として子鋏倉神社本殿をあげることができる。実際の桁行身舎柱間は 8.251 尺（2.56m）、梁行身舎柱間は 6.76 尺（2.048m）、身舎・向拝柱間は 6.39 尺（1.936m）であり、ほぼ一致している。この規模は横田棟梁が手掛けた一間社の中で最大規模のものであり、三間社流造本殿をもつ羽黒神社を除けば、子鋏倉神社は旧県社であって社格が最も高いといえよう。

「位荷宮御神楽殿小屋組之図」（図 4）、「稻荷宮神楽殿正味軒廻り十分一」（図 5）、「神楽殿和様大垂木大臂木作」（図 6）は、規模から判断して同一の神楽殿の図面と考えられる。横田棟梁の作品の中で、神楽殿の遺構は現存していないので、これらの図面だけでは建物名を特定することはできない。ところで横田棟梁が手掛けた稻荷神社として、蛭沢稻荷神

表3 本殿・拝殿の規模

番号	名称	建築年代	身舎桁行柱間	身舎梁行柱間	身舎・向拝柱間	縁形式
1	菅谷神社本殿	寛保 2・1742年	5.254 (1.592)	4.314 (1.307)	4.066 (1.232)	束立
2	郎山神社本殿	明和元・1764年	4.010 (1.215)	2.842 (0.861)	2.449 (0.742)	束立
3	菅船神社本殿	文化 14・1817年	6.865 (2.080)	6.129 (1.857)	4.957 (1.502)	腰組
4	蛭沢稻荷神社本殿	文政 3・1820年	8.000 (2.424)	6.581 (1.994)	6.119 (1.854)	束立
5	子鋏倉神社本殿	嘉永 6・1853年	8.215 (2.500)	6.760 (2.048)	6.390 (1.936)	腰組
6	子鋏倉神社拝殿	嘉永 6・1853年	6間	2間		
7	鹿島神社拝殿	明治 16・1883年	6間	2間		
8	熊倉神社拝殿	明治 21・1888年	4.5間	2間		
9	宇佐八幡神社拝殿	明治 23・1890年	6間	2.5間		
10	古峰神社拝殿	明治 31・1898年	5.5間	2間		

注：規模の単位は尺、() は m、1 間は 6 尺

社、子鋏倉神社（岩城稻荷宮）、駒形神社（駒形稻荷宮）の3社がある。そこで子鋏倉神社の格式をみると、当神社は式内社磐城七社の1つであり、古くは磐城四郡の総鎮守と称され平城三社の1つでもあった。明治6年（1873）には県社に指定されている。また蛭沢稻荷神社・駒形神社はいずれも旧村社であった。したがって神楽殿をもつ神社としては子鋏倉神社が最も相応しいと考えられるので、図4-6は子鋏倉神社神楽殿の図面と推定することができる。

「一間社流作右妻之図」（図7）は、遺構と比較した結果、持送り・木鼻・墓股・虹梁・笈形などの絵様から判断すると、これまでの研究⁽⁶⁾を踏まえれば、19世紀中頃の様式を示しているといえよう。また横田棟梁の作品の中で、縁形式が腰組となっている本殿は菅船神社本殿と子鋏倉神社本殿の2例に限定され（表3参照）、かつ菅船神社本殿（1817）が19世紀初期のもの、子鋏倉神社本殿（1853）が19世紀中頃のものであることからすれば、図7は子鋏倉神社本殿と考えることができる。

「拝殿小屋組之図」（図19）には建物名の記載がなく、これだけでは特定が困難である。そこで拝殿の平面規模をみると、桁行6間、梁行2間であることがわかる。表3によると、横田棟梁が手掛けた拝殿の中でこの規模のものは、子鋏倉神社拝殿と鹿島神社拝殿の2例に限定される。ところで図面資料における小屋伏図をみると意外なことに気が付く。それは明治以降の小屋伏図が皆無であるということである。このことからすれば、図19は子鋏倉神社拝殿の図面の可能性が高いといえよう。

③ 羽黒神社本殿（元治元・1864年）

「三間社老丈二尺之木割正味」（図9）、「五間社 三間社」（図10）、「神社本殿三間社流造平面図」（図11）、「本殿側面図」（図12）は身舎桁行柱間三間、身舎梁行柱間二間の三間社流造の大規模な本殿である。現存する遺構調査の結果によれば、横田棟梁が手掛けた本殿は、鹿島神社の三間社神明造本殿を除けば、すべて一間社流造本殿であった。ところで三間社流造本殿は相当に格式が高く、横田棟梁が手掛けた神社の中では、その格式に相応しい神社として、羽黒神社以外に他は見当たらない。それゆえ図9-12は、羽黒神社

本殿と考えることができる。[本殿側面図] をみると、臺股・虹梁・鬼板の絵様は幕末期の様式であるのに対して、妻飾が豕叉首で古式な性格をもっていることがわかる。このことはもしかすると羽黒神社の伝統を意味しているのかもしれない。

④ 駒形神社本殿（明治6・1873年）

「駒形稻荷宮御本社地図正味木割」（図13）、「駒形村稻荷宮雨覆伏図」（図14）、「駒形宮」[高欄廻り姿図]（図15）、「駒形宮」[組物廻り詳細図]（図16）はすべて図面に建物名が記されているので、駒形神社の図面であることがわかる。

図面の本殿は桁行柱間1.2尺、梁行柱間1尺、身舎・向拝柱間0.953尺の規模で、実際の本殿とほぼ同じ規模である。実際の本殿は桁行6尺、梁行4尺の内陣と桁行12尺、梁行10尺の外陣からなる覆屋の内陣部分に安置されている（図37参照）。しかし図面によると桁行9尺、梁行12尺の覆屋（雨覆）が同じ大きさの内陣と外陣の2間に分けられ、桁行9尺、梁行6尺の内陣に本殿を安置する計画であったことがわかる。

⑤ 鹿島神社本殿（明治16・1883年）

「鹿島神社御本社拾歩壺之図」（図17）は、建物名が記入されているので問題はない。[神社本殿・拝殿・幣殿側面図]（図18）の本殿形式が神明造であることから、横田棟梁が手掛けた本殿の中で神明造は鹿島神社本殿以外に見当たらないので、この図面は鹿島神社本殿の側面図と考えることができる。

⑥ 熊倉神社本殿（明治21・1888年）・拝殿（明治22・1889年）

熊倉神社には「鎮守熊倉神社御本宮」（図21）および「熊倉神社拝殿」（図22）の図面が保存されていて、前者は第5代横田左衛門の弟子吉田鍛造によって昭和28年10月に写されたものであり、後者は第6代横田棟梁である石太郎によって描かれたものである。[本殿側面図]（図20）は「鎮守熊倉神社御本宮」と酷似していて、本殿の臺股・虹梁・獅子鼻・笄形・鬼板鱗などの絵様から判断すると、現存遺構と同じ明治中期頃の様式をもっていると考えられる。したがって図20は熊倉神社本殿を描いた図面であるといっていよう。

⑦ 諏訪神社拝殿（建築年代不明）

「郷社諏訪神社拝殿十分壹正面図」（図23）は、どこの諏訪神社の図面か不明である。横田棟梁が手掛けた諏訪神社としてわかっているのは、滝根町広瀬の諏訪神社本殿（明和9年・大正15年修理）、滝根町菅谷の諏訪神社本殿（修理）などがあるが、いずれも旧村社格の神社であり、「郷社諏訪神社」と格式が異なる。近郷で郷社格の諏訪神社を探してみると、小野町夏井に所在する夏井諏訪神社がある。この神社は江戸時代に「小野壺郷四ヶ村の鎮守」として正一位諏訪大明神と称され、明治維新に諏訪神社と改称され、郷社に列せられた。確たる証拠は発見できなかったが、水引虹梁上欄間彫刻が龍であり、兎の毛通し彫刻が鳳凰であること、様式から判断すれば明治初期の建築であることなどに共通点が

みられ、横田棟梁の作品の可能性は高いといえよう。

⑧ 建物名不明の図面

〔拝殿側面図〕(図24)は棟に笠木を載せているので拝殿と考えられるが、その他にあまり特色がないので、建物名を特定することは困難である。繫虹梁・懸魚の絵様から判断すれば、幕末期に建てられた拝殿の図面であろう。

〔鳥居正面図〕(図25)はどこの神社の鳥居かわからないが、奥州田村郡三春領広瀬村赤沼の横田廣次包朋が描いたものである。廣次は文化2年(1805)に生まれ、第4代横田左衛門として文政7年(1824)に船引の地藏院殿堂などを建築し、元治元年(1864)に死去している。この鳥居は鳥居の左右に脇鳥居を付けた三輪鳥居といって、奈良県大神神社のものが知られている程度であり実例はない。廣次はこの図面を三輪鳥居の木割の学習のために描いたのではないだろうか。

その他の図26-30は全く手掛かりがなく、建物名を明らかにすることはできなかった。

IV おわりに

これまでの考察の結果をまとめると以下のように要約される。

- 1) 寺院関係の図面資料が108点あったのに対して、神社関係の図面資料は33点と圧倒的に数が少ない。
- 2) 神社関係の図面資料で手元にある27点の図面のうち、建物名が不明なものが21点あったが、図面相互の比較や現存遺構との比較を通して、14点について建物名を明らかにすることができた。

注

- (1) 拙稿「横田家大工文書の研究(1)-(10)」共栄学園短期大学研究紀要第11・13-21号 1995・1997-2005年3月
- (2) 拙稿「横田家大工文書の研究(4)-(10)」共栄学園短期大学研究紀要第15-21号 1999-2005年3月
拙稿「横田家大工文書における近世住宅の調査研究」住宅総合研究財団研究年報26号 2003年3月
- (3) 滝根町教育委員会『滝根町古文書調査報告4』(滝根町史資料集第10集)1986年
滝根町教育委員会『滝根町古文書調査報告6』(滝根町史資料集第14集)1988年
- (4) 拙稿「横田家大工文書の研究(10)」共栄学園短期大学研究紀要第21号 2005年3月
- (5) 拙稿「横田家大工文書の研究(8)」共栄学園短期大学研究紀要第19号 2003年3月
- (6) 注(5)に同じ。

【菅谷神社本殿（寛保2・1742年）】

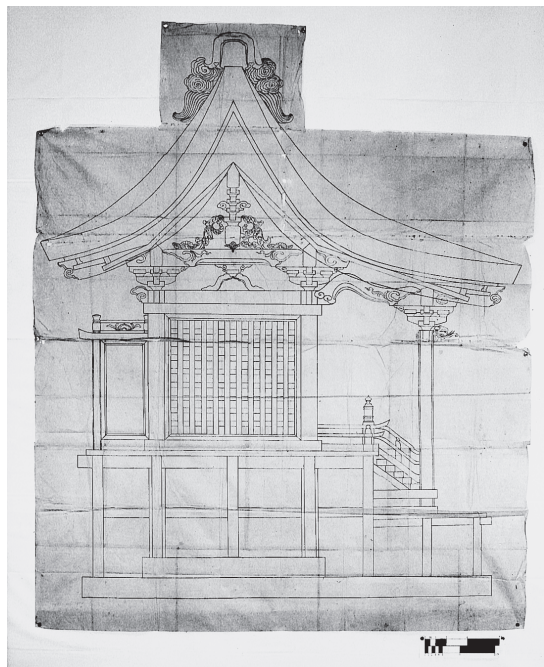


図1 〔神社本殿側面図〕

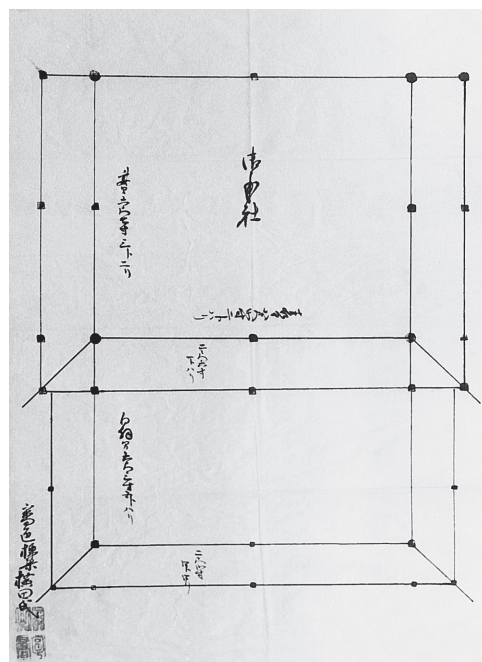


図3 御本社〔本殿伏図〕

【子鋤倉神社神楽殿（嘉永6・1853年頃）】

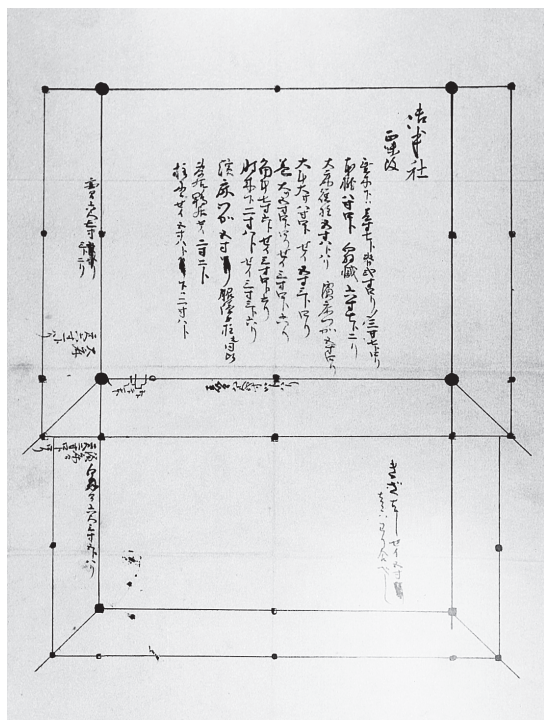


図2 御本社正味改

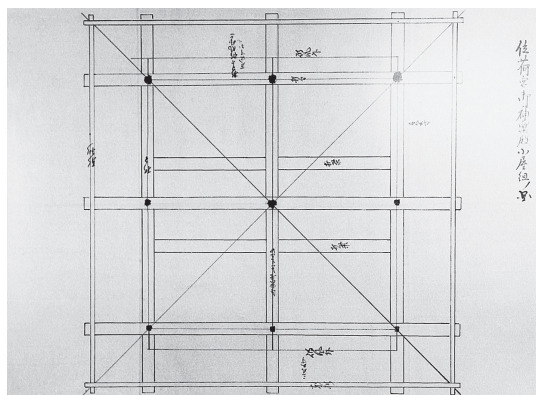


図4 位荷宮御神楽殿小屋組之図

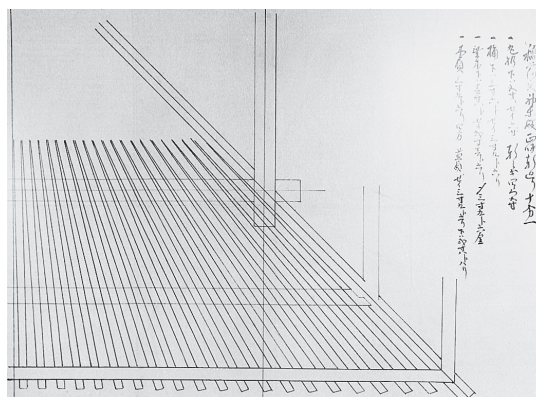


図5 稲荷宮神楽殿正味軒廻り十分一

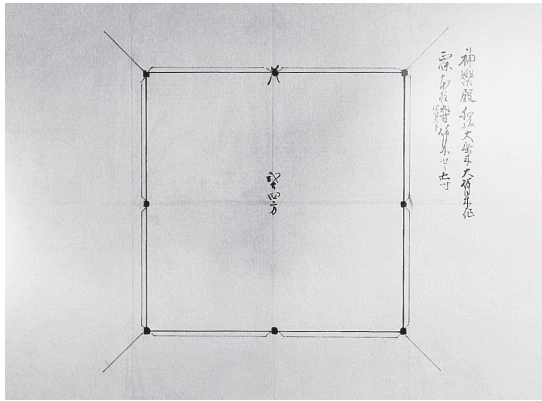


図6 神楽殿和様大垂木大臂木作

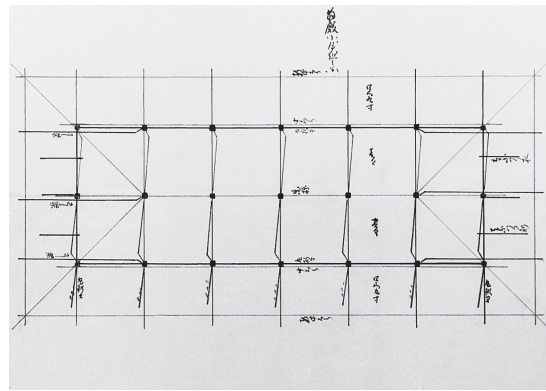


図9 拝殿小屋組之図

【子楯倉神社本殿（嘉永6・1853年）】

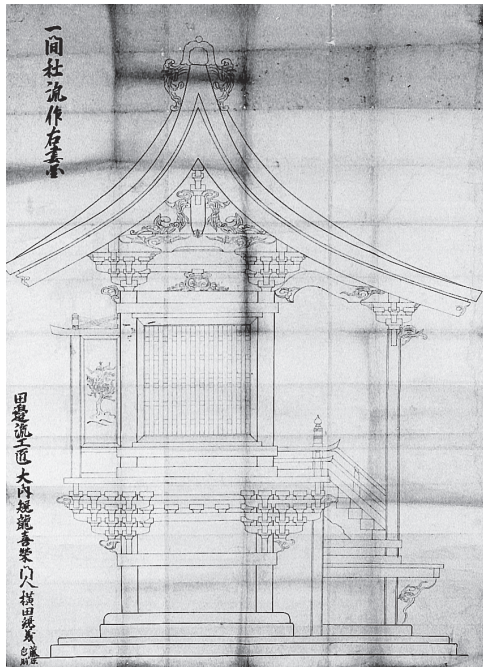


図7 一間社流作右妻之図

【羽黒神社本殿（元治元・1864年）】

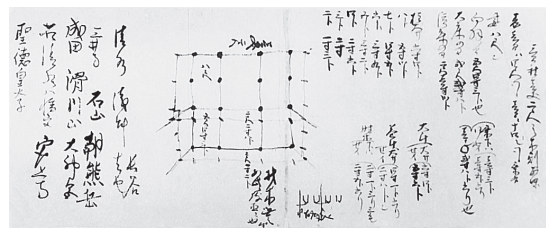


図10 [神社本殿三間社流造平面図]

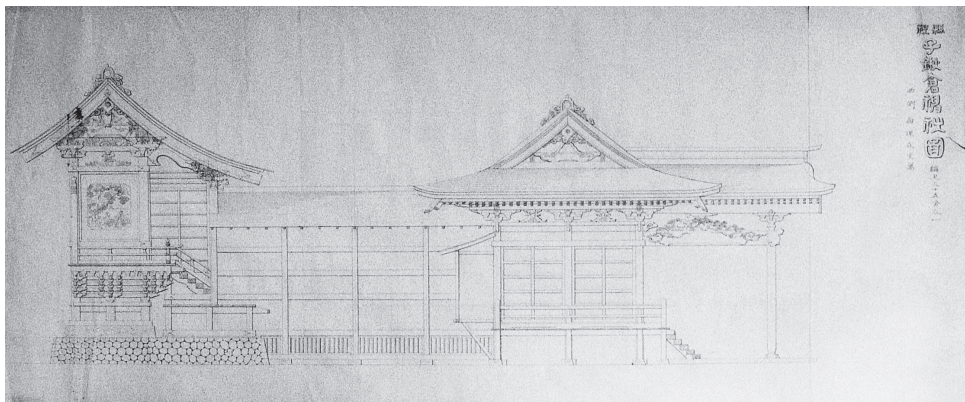


図8 縣社子楯倉神社図 縮尺二十五分一（神社所蔵図面）

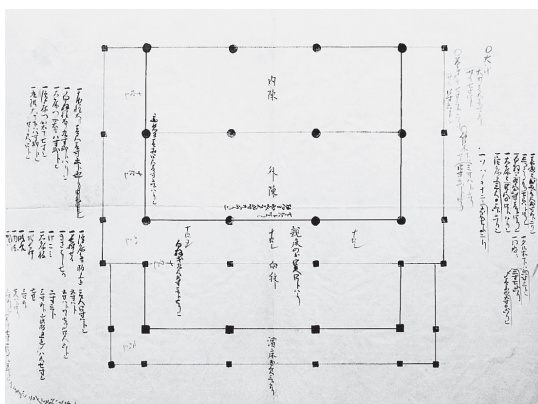


図 11 三間社壺丈二尺之木割正味

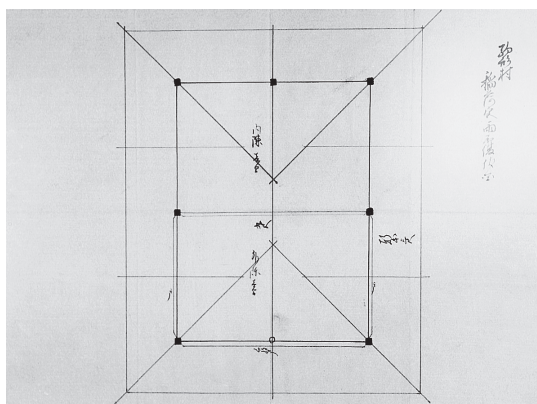


図 14 駒形村稻荷宮雨覆伏図

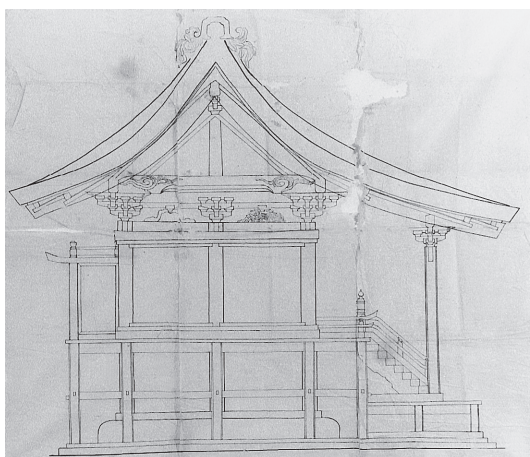


図 12 [本殿側面図]

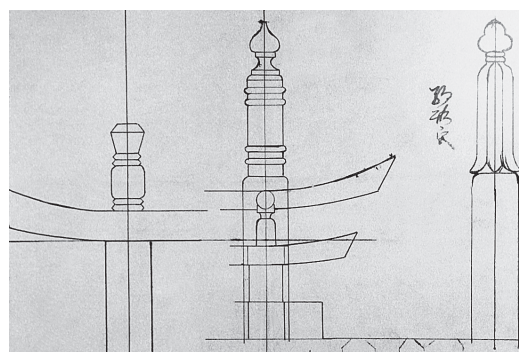


図 15 駒形宮 [高欄廻り姿図]

【駒形神社本殿（明治6・1873年）】

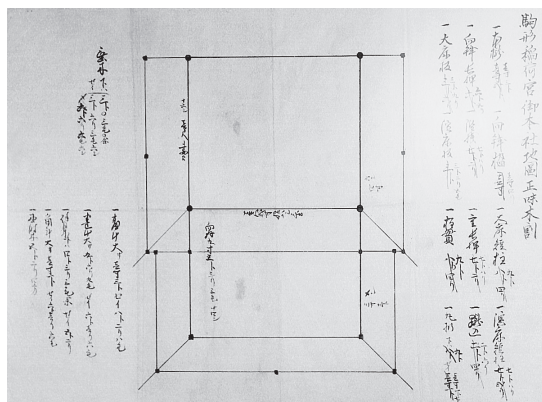


図 13 駒形稻荷宮御本社地図正味木割

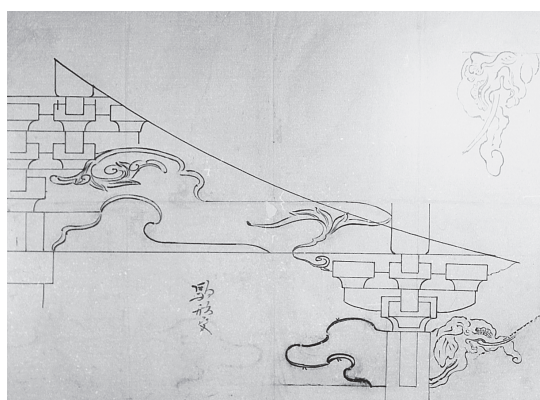


図 16 駒形宮 [組物廻り詳細図]

【鹿島神社本殿（明治16・1883年）】

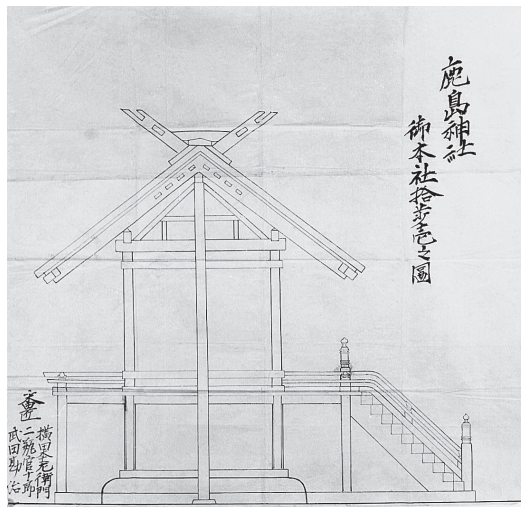


図17 鹿島神社御本社拾歩壱之図

【熊倉神社本殿（明治21・1888年）】

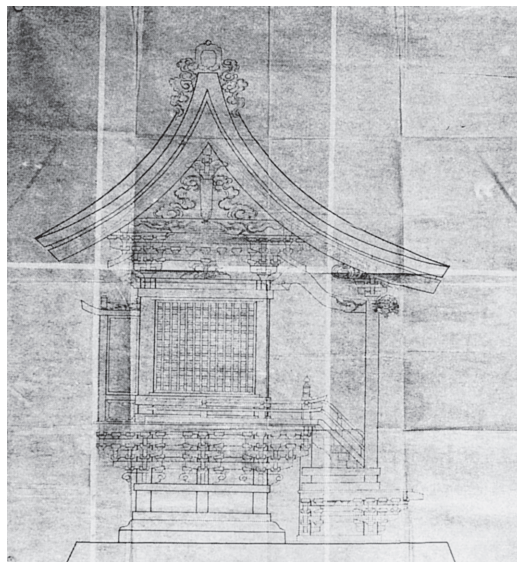


図19 [本殿側面図]

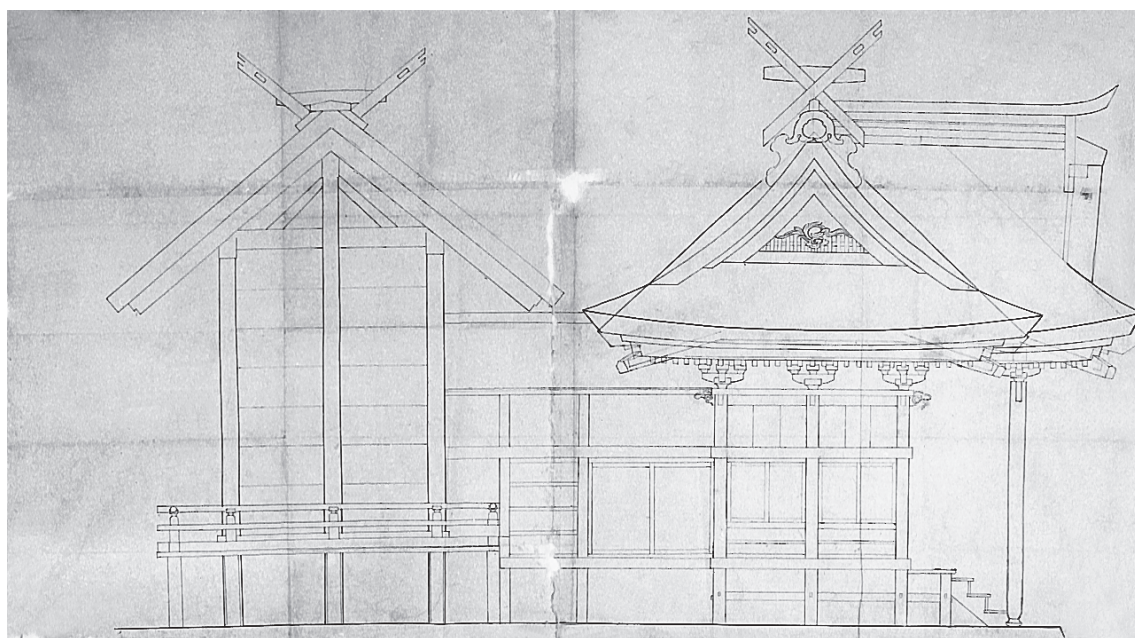


図18 [神社本殿・拝殿・幣殿側面図]

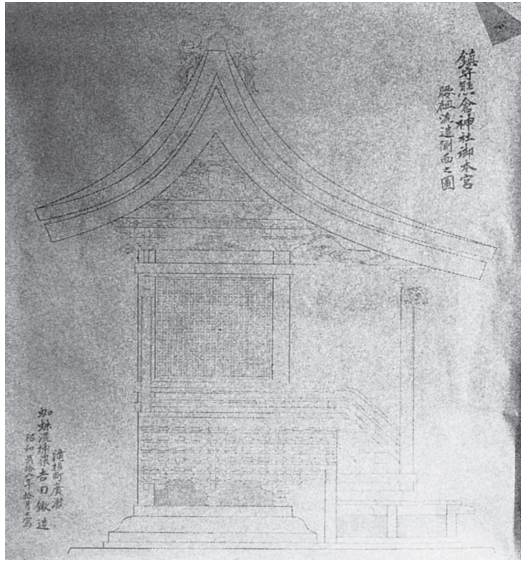


図 20 鎮守熊倉神社御本宮（神社所蔵図面）

【建物名不明】

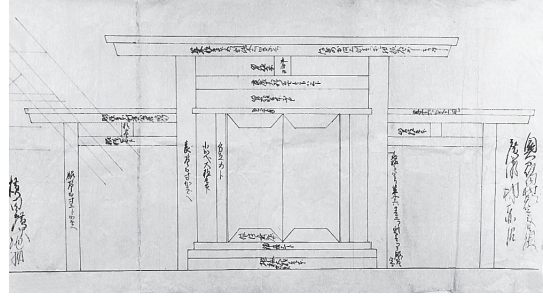


図 23 [鳥居正面図]

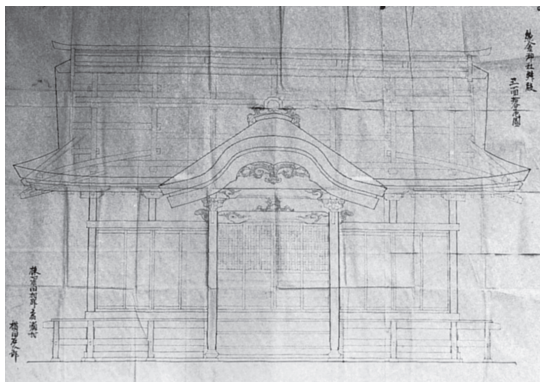


図 21 熊倉神社拝殿（神社所蔵図面）

【諏訪神社拝殿（不明）】

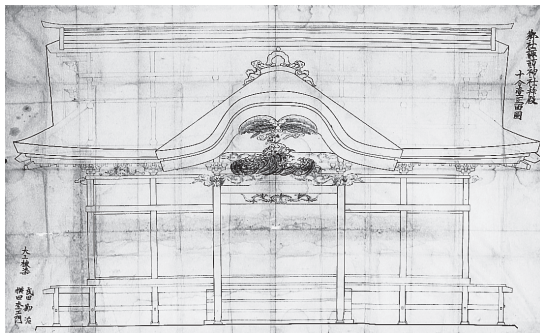


図 22 郷社諏訪神社拝殿 十分壹正面図

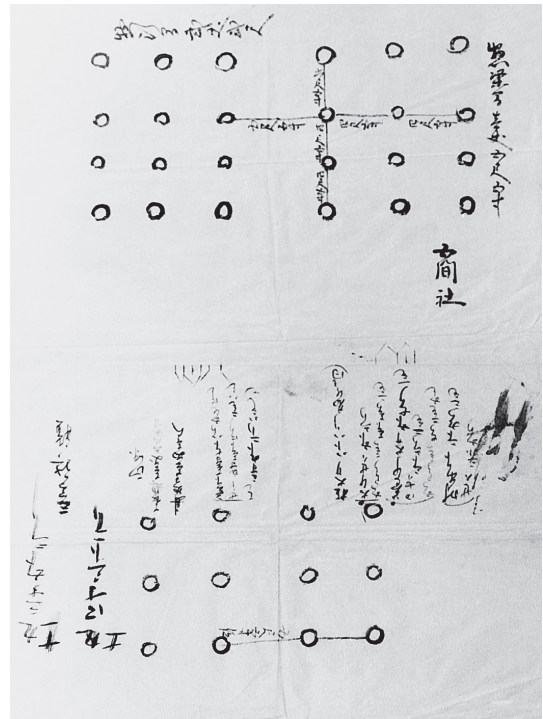


図 24 五間社 三間社

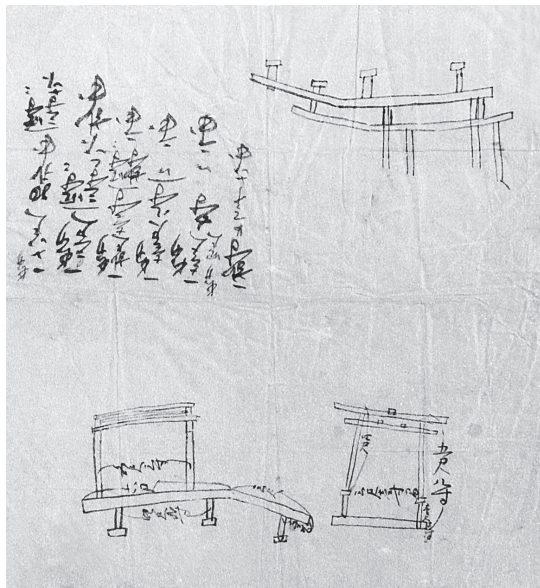


図25 [鳥居等寸法図]

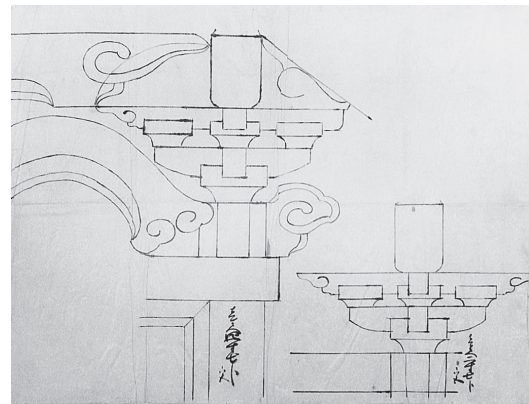


図28 [組物廻り詳細図]

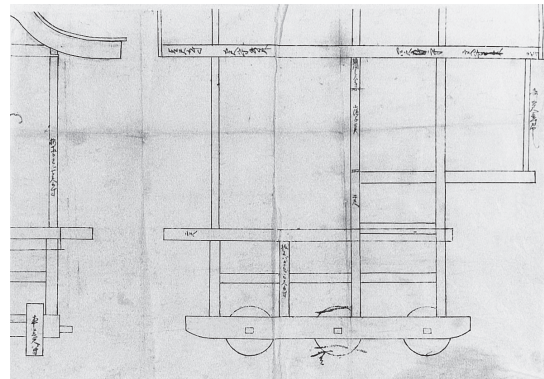


図29 [山車側面図]

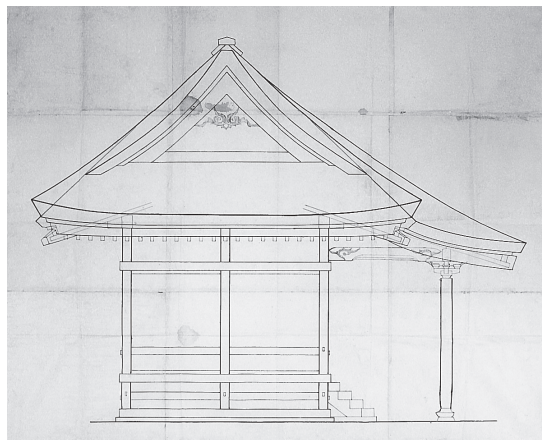


図26 [拝殿側面図]

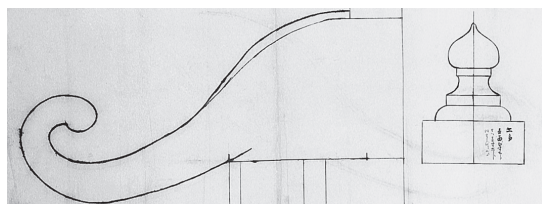


図27 [神輿宝珠及び屋根部分図]

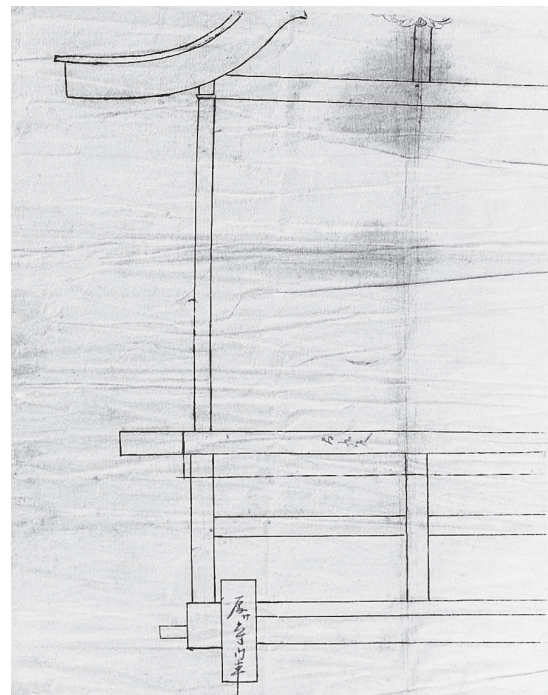


図30 [山車正面図 (部分)]

【現存遺構平面図】

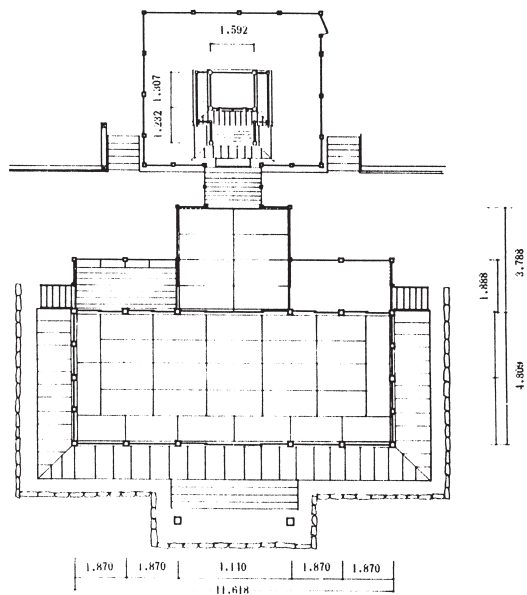


図 31 菅谷神社本殿 (寛保 2・1742 年)

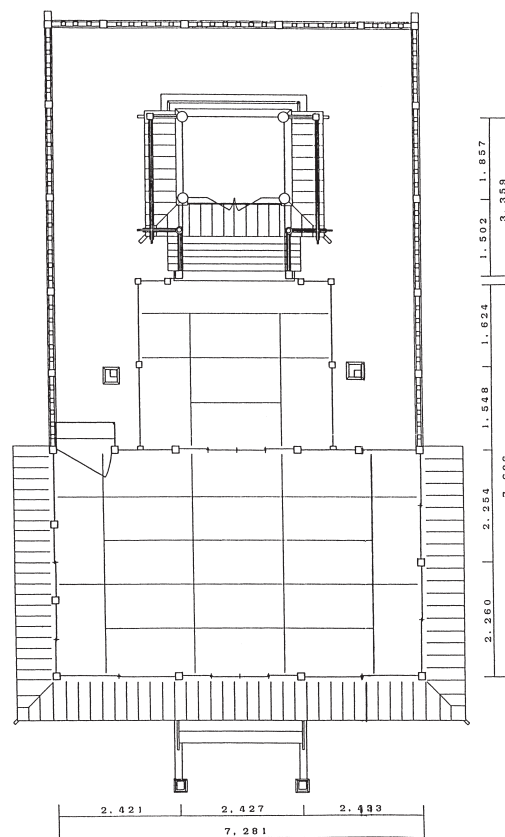


図 33 菅船神社本殿 (文化 14・1817 年)

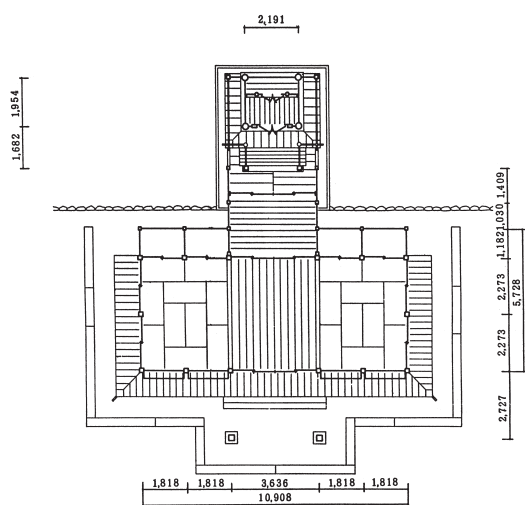


図 32 宇佐八幡神社本殿 (延享 3・1746 年)

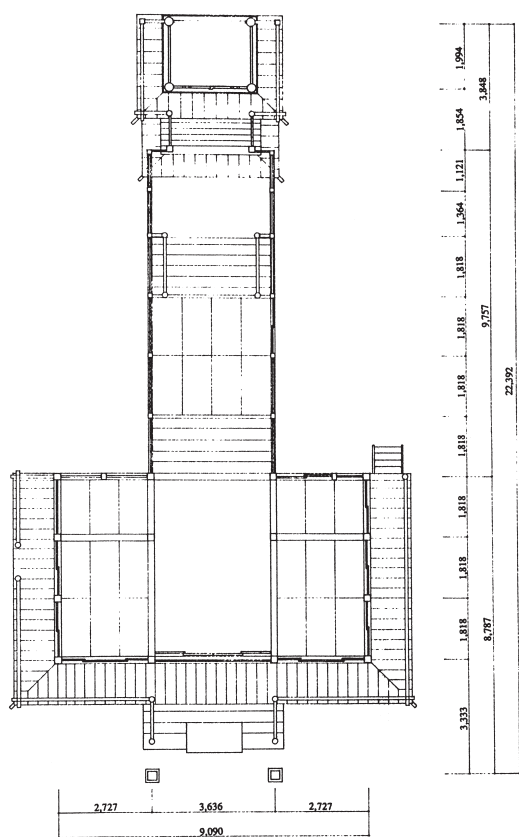


図 34 蛇沢稲荷神社本殿 (文政3・1820年)

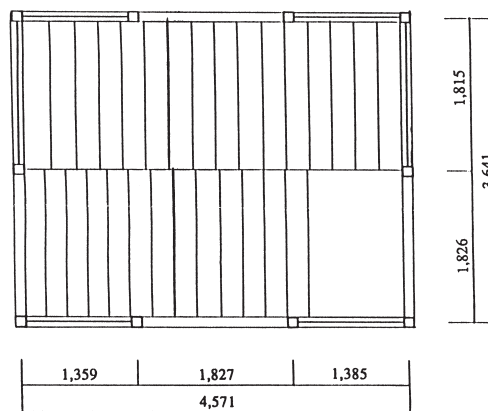
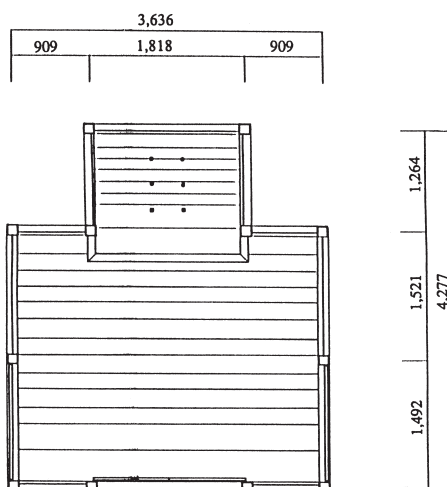


図 36 駒形神社本殿 (明治6・1873年)

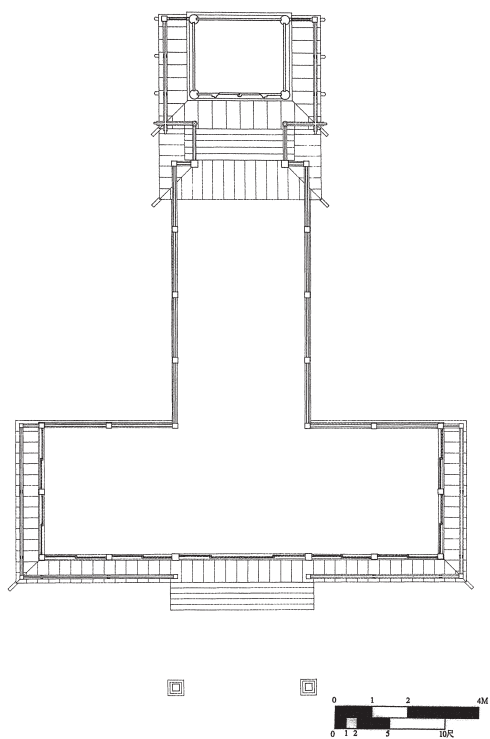


図 35 子鋤倉神社本殿 (嘉永6・1853年)

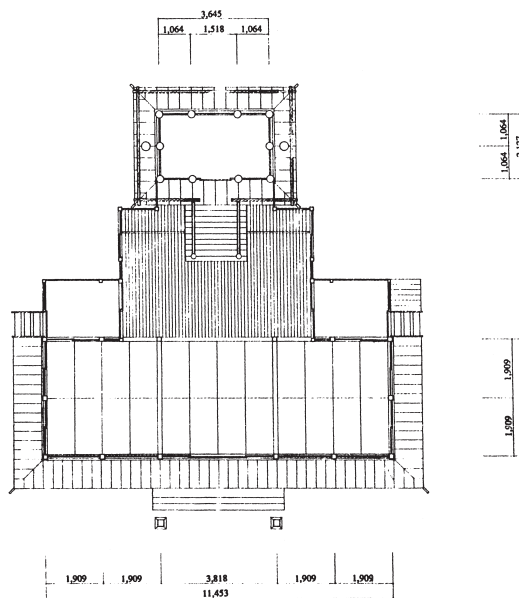


図 37 鹿島神社本殿 (明治16・1883年)

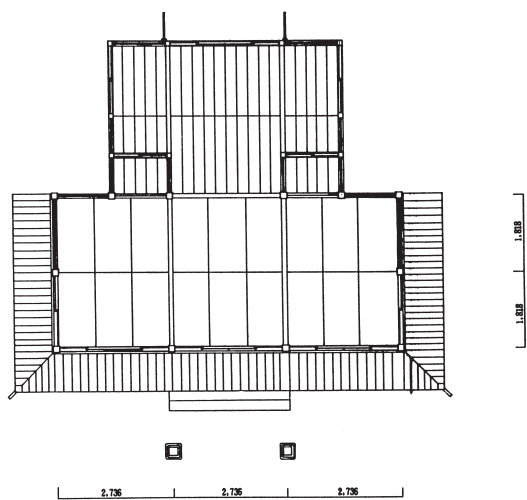


図 38 熊倉神社社殿 (明治 22・1889 年)

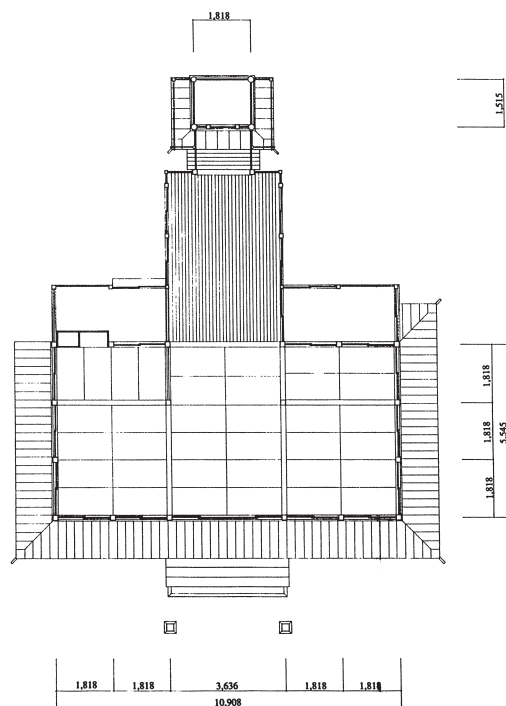


図 41 標葉神社社殿 (不明)

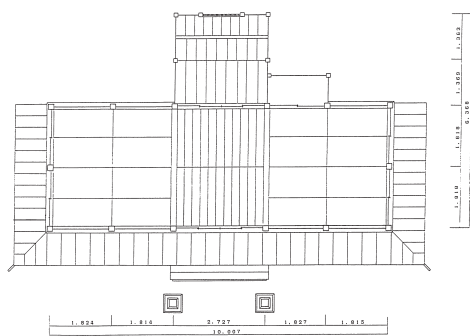


図 39 古峰神社拝殿 (明治 31・1898 年)

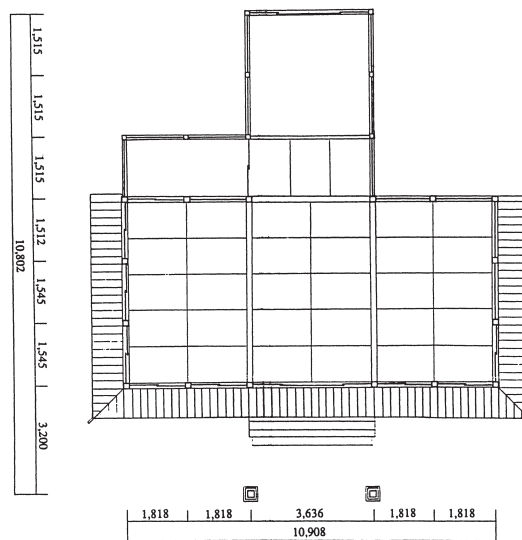


図 42 夏井諏訪神社拝殿 (不明)

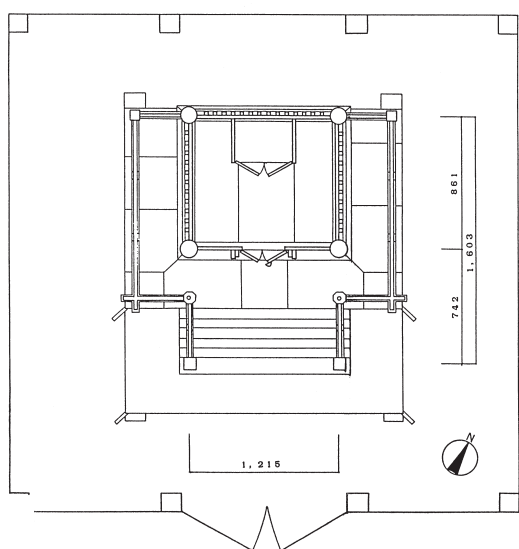


図 40 郎山神社本殿 (明治 37・1904 年)